



★今月号のラインナップ

1. [ひろば](#)

皆様の「ホテル信濃路」「みやま荘」をご利用ください。

保健厚生課長 丸山隆義

2. [特集](#)

「SWANプロジェクト」について

スポーツ課

3. [今、学校では](#)

「未来塾ながの in 韓国」について

教学指導課

4. [現場レポート](#)

○上小視聴覚教育研究大会 ～情報通信機器（ICT）を有効に活用した授業～

【青木小学校】

○「たのめの里」を訪ねて ～両小野学園小中一貫教育懇話会～

【両小野学園】

5. [イベント情報・お知らせ](#)

6. [あとがき](#)

皆様の「ホテル信濃路」「みやま荘」をご利用ください。

保健厚生課長 丸山隆義

平素から公立学校共済組合長野支部が運営する「ホテル信濃路」、「みやま荘」をご利用いただき、ありがとうございます。

「ホテル信濃路」は昭和45年に開業し、以来何度か改装をしながら現在に至っております。

一時は婚礼や会合など組合員様を中心にご利用いただき、良好な経営環境にありましたが、オリンピックの開催前後から長野市内はホテルが乱立し、過当競争が始まりました。加えて長引く景気の低迷により、いくつかのホテルが撤退する状況下にあっても何とか堪えて、ご利用者様へのサービスを提供し続けてきています。



お陰様で「信濃路の料理は良くなった」という声を頂戴しております。同じご利用料金であれば他所様に負けないサービスを提供させていただくように施設一丸となって頑張っています。

一方、浅間温泉保養所「みやま荘」の開業は昭和30年12月と更に古く、58年5月に現在の建物となっています。レジャーが多様化し、温泉地そのものの利用が低迷してきている中で、皆様のための「信州の温泉保養所」としてこちらも頑張っています。

昨年4月にリニューアルオープンをしており、露天風呂併設の天然温泉と広くなったお部屋で、ゆっくりとお寛ぎいただけます。

ご宿泊はもちろん、昼食と入浴での御利用も大歓迎です。

こちらも某ホテルのシェフをお招きし、お料理の内容がいいとの評判をいただいております。

会合やご家庭サービスに一度是非ご利用を頂けますようお願いいたします。

両施設とも昨今景気もなかなか上向かない中で非常に厳しい経営状況が続いております。

より良いサービスの提供に心掛け、施設一丸となって頑張っています。

職場単位、個人利用を問わず、組合員の皆様のご利用を切にお願い申し上げます。

長野県では、平成21年度から、未来の冬季オリンピックのメダリストを見出し、育成し、子どもたちに世界で活躍する競技者となる『夢とチャンス』を与えることを目的として、スキー、スケート、カーリング、ボブスレー・リュージュ・スケルトン競技において、**Superb Winter Athlete Naganoプロジェクト**（以下「SWANプロジェクト」という。）を実施しています。

SWANプロジェクトは、JOC（公益財団法人日本オリンピック委員会）、JSC（独立行政法人日本スポーツ振興センター）、競技団体等との連携を図りながら世界に挑戦する競技者育成に必要なプログラムを提供し、育成しているものです。



【選考会の様子】



【開講式】

現在、1期生から5期生の総勢89名のSWANメンバーがメダリストを目指し、トレーニングに励んでいます。メンバーの応募は全国から可能ですが、定期のプログラムへの参加が必要なため、ほとんどのメンバーが県内の選手です。今年度の5期生選考会では、60名の応募があり、1次選考会・2次選考会で18名が認定されました。

SWANメンバー全員対象の共通プログラムは、月に2～3回程度、長野市を中心会場として原則平日または土曜日の夜、19時～21時に行っています。おもなプログラムとしては、フィジカルトレーニング、スポーツ栄養学、語学、コーディネーショントレーニング、オリンピック教育等があります。また、整形外科医、内科医がプログラムに同席し、メディカルチェックを適宜行っています。

随時実施される特別講座では、JOC主催研修会、他県との交流会、短期合宿等があり、今年度の合宿は8月に2泊3日の日程で軽井沢で実施しました。

また、専門種目トレーニングを競技団体ごとに実施しており、スキー・スケートは、基本的に各クラブに所属して練習を行い、カーリングは軽井沢町、ソリ系は長野市において実施しています。

SWANプロジェクトの成果は確実に表れてきており、昨シーズンの主な成績として全国中学生スキー競技大会・スケート競技会に15名が出場し、上位入賞を果たすなど、全国規模の大会で活躍するメンバーが現れてきています。

今年もすでに冬季競技が始まっていますが、来年2月にはソチオリンピックが控えており、世界中の冬季競技選手が国の代表や、メダリストを目指し、しのぎを削っています。SWANメンバーの中から、4年後、8年後の冬季オリンピック・メダリストが輩出できるよう関係団体と連携し、今後とも取り組んでまいります。



【オリンピック教育】



【栄養学】

◆お問い合わせ◆

スポーツ課 体育スポーツ振興係

TEL : 026-235-7449

FAX : 026-235-7476

e-mail: sports-ka@pref.nagano.lg.jp

[目次に
戻る](#)

「未来塾ながの」は、長野県教育委員会による高校生キャリア教育プログラムとして平成20年にスタートしました※注1。

今年は外務省による JENESYS2.0※注2プログラムの後援を受け、韓国において1週間の研修を実施、全県から集まった46名の高校生が参加しました。日韓文化交流基金のご尽力により、在大韓民国日本大使館などの行政機関や現地進出の日本企業の訪問、キムチづくりやテコンドーなどの文化体験、現地高校生との交流やホームステイ等、「未来塾ながの」の研修要素をふんだんに盛りこんだプログラムを実施することができました。

以下、実際に韓国の高校生と交流した生徒たちの声を紹介します。



韓国の高校生と

○学校訪問では一緒に授業を受けた。これは異文化を肌で体験でき、韓国の人の考え方がわかる。彼らは授業への意欲がものすごく高く、挙手の回数が多いのだ。隣の席の子のノートを見ると、一面ぎっしり書き込んであり、予習である程度理解を得ていると感じた。日本人は真面目過ぎると外国人からは見られるが、真面目でユーモアのあるのが韓国人だと心で感じた。(2年男子)



韓国の高校で調理実習

○最初は誰もが言葉も通じないのに大丈夫なのかと緊張していたと思う。でも高校生やその家族の積極性、元気、またその中にある優しさに触れることで、緊張でこわばっていた顔も自然に和らいだのだと思う。そのようなことから、実際に交流しなければわからない、人の本当の「魅力」に気付かされた。僕自身も、そんな「魅力」ある人になりたいと思った。(1年男子)

○日本には韓国の高校生の日常など見るできないが、「百聞は一見にしかず」という言葉もあるように、今回実際に見ることで様々なことを知ることができた。また韓国に対するイメージも変わった。今回の研修を通して、メディアの情報だけに頼らず、物事をもっと客観的に見られるようになりたいと思った。(2年女子)

○ホームステイした家で、日本と韓国の関係についても話をしたが、パートナーの父親が「日本と韓国の若者は古い歴史にとらわれなくて手をつないで互いを支えていく存在になる必要がある」と言っていた。一番の本質である国民同士の協力が本当にこの先不可欠だということを改めて思い知らされた。目先の情報にとらわれなくて、これからはグローバルな視点から物事を見る必要がある。自分は、その視点を作るきっかけを今回頂いたと思う。今後、何らかの方法で発信していきたい。(1年男子)

今回のプログラムでは、韓国で活躍する長野県出身者に数多く出会いました。中でも、在大韓民国日本大使館では長野市出身の若き外交官のお話を伺いましたが、彼女に対し「どんな高校生活を送ったのか」「仕事のやりがいは何か」など、質問を重ねる生徒の目は真剣そのものでした。また、エプソン・코리아の社長、韓国語の通訳など、海外で働く信州人の姿に大いに刺激を受けた生徒たちからは、「語学に力を入れ、将来は海外で活躍したい」「日本に帰ったらもっと勉強しようと思った」などの感想が聞かれ、韓国での研修が彼らにとって「生きた」キャリア教育プログラムとなったことを実感できました。そして何よりも一週間の間にみるみる成長していく高校生の姿が印象的であり、高校時代に生徒たちにどんな体験をさせ、どう導くのか、引率者自身も一教員として考えなおす良い機会となりました。

今、日韓の関係はいつになく冷え込んでいると報道されています。

しかし民間交流は従来どおり行われています。現地の高校生と直接交流することで、ネット上に出回る情報などとは別の顔を持つ「隣国・韓国」に対する理解を深められたことも今回の研修で大きな収穫であったと思います。

これからの時代、グローバル人材の育成は喫緊の課題とされています。県教育委員会として、そうした人材育成のためのプログラムをこれからも推進していきます。



南北分断について学ぶ

※注1 産学官連携のキャリア教育推進事業。将来および地域をになう人材に必要な資質を養成することを目的として企業・大学・自治体などの先進的な取組を学ぶとともに、優れた企業人・研究者・行政担当者等と交流することにより、勤労観を養えるような機会を提供する。同時に、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力などの伸張を図ることをねらいとしている。

※注2 Japan-East Asis Network of Exchange for Students and Youths

3万人規模でアジア大洋州諸国及び地域との間で実施する外務省の青少年交流事業。政府の経済対策の一環として位置付けられている。



景福宮前にて

◆お問い合わせ◆

教学指導課 高校教育指導係

TEL : 026-235-7435

FAX : 026-235-7495

E-Mail : kyogaku@pref.nagano.lg.jp

目次に
戻る

平成 25 年 11 月 7 日

■公開授業

2年生の国語の授業。本時のテーマは、「しかけカードの作り方」。しかけカードの作り方についての説明文が5枚の短冊カードに分かれているので、文章や絵を参考にしながら、短冊カードを正しい順番に並び替えよう、というものです。



先生からの「短冊を並び替えて、その順番にした理由を短冊に書きこんで下さい。」という指示とともに、各自が机の上で5枚の短冊と格闘開始。ある程度時間が経つと、今度は隣の人と話し合い。自分の考えを隣の人に説明しているうちに、自分の考えが変わる児童や、相手の説明を聞いているうちに、新たな気づきを得る児童も。

そして、全員で考える時間。先生が発表者を募ると、たくさんの児童が元気よく挙手！素晴らしい積極性です。数人が発表した後、先生が何やら電子黒板を引っ張り出してきました。児童の発表に、電子黒板を使うようです。電子黒板に短冊を映し出すと、みんなの視線がさっと集中。



再び先生が発表者を募ると、ここでも大勢の児童が挙手！先生が発表者を指名すると、他の児童はさっと前に集まり、モニターを注視。発表者は、モニターに自分の短冊を映し出し、時折並び替えながら、自分の考えを発表します。短冊に書き込んだ内容も電子黒板に映し出されるので、発表もしやすく、また聞き手の理解もスムーズです。

■授業研究会

授業終了後、参観した先生方や授業を行った担任の先生が集まり、授業の進め方等について意見交換を行いました。担任の先生からは、「児童が接続詞に注目したのはよかったが、話が接続詞に何度も戻ってしまい、文章の内容にもっと目を向けさせたかった。」など、反省の弁が述べられます。



グループ別討議の後の、全体発表。様々な角度からたくさんの意見が出されました。

参観した先生からは、「本日は正解を出さなかったが、一度正解を出した上でその理由を考えさせてもよかったのではないか。」「内容に注目させるため、短冊の絵は無くてもよかったのではないか。」等の意見が出された一方で「じっくり考えさせたのはよかった。」「短冊に絵を入れたことで、文章が苦手な児童にとっては良いヒントになった。」という意見もありました。

また、ICTの活用に関し、「児童は電子黒板に注目するので、もっとキーワードをズームアップすればよかった。」といった意見も出されました。

■最後に

総括として、指導者である専門主事から、アナログとデジタル（ICT）をうまく使い分けることが重要であり、各先生が、自分の得意とする ICT 機器を1つ持つことが重要だ、との話がありました。

筆者の目から見ても、電子黒板が出てきたときの児童の集中力の高まりは、目を見張るものがありました。授業の中で一番集中させたい部分で ICT 機器を活用する、といった手法も有効かもしれません。

授業研究会では、このレポートではとても書ききれないくらいたくさんの意見が出され、各先生方が日ごろ様々なことに配慮して授業を進めているのだ、と感じました。

担任の先生が作成したこの公開授業に関する資料も見せてもらいましたが、児童1人1人の状況を踏まえ、それぞれの児童にどんな力を付けさせたいのか、という目標を明確に持って、授業を進めていることがよくわかりました。

最後に、急なお願いにもかかわらず私の訪問をご快諾いただき、授業研究会にまで私を参加させてくださった校長先生、教頭先生をはじめとする諸先生方、貴重な体験を本当にありがとうございました。



4年生以上の全員に1台ずつ配備されたタブレット端末による5分間ドリル学習。4～6年生が毎日取り組んでいます。スタートの合図で音楽が流れ始めると、みんなの集中力が一気に高まり、次から次へと計算問題を解いていきます。とにかく集中力が凄い！

（文責 教育総務課 石川直樹）

[目次に
戻る](#)

「たのめの里」を訪ねて～両小野学園小中一貫教育懇話会～

平成 25 年 11 月 13 日

塩尻市・辰野町の境にある、両小野学園で行われた小中一貫懇話会に参加させていただきました。

両小野小学校と両小野中学校では、平成 23 年度から両小野学園として小中一貫教育に取り組み、また、文部科学省の教育課程特例校の指定を受けて「たのめ科」という教科外の学習を設けています。地域の方々の協力を得ながら、9年間を通して、故郷「たのめの里」の自然・歴史・文化などを学び、「思考力・判断力・表現力」を身に付ける取り組みです。

【公開授業】

メニューの一つとして、「小学生の1ヶ月間中学登校」があります。その名のとおり、小学6年生が、1ヶ月間、中学校に通って授業を受ける、という取り組みです。中学校には小学6年生が1ヶ月間通学するために、空き教室を利用した専用の教室が用意されているそうです。

今回、その1ヶ月間の中で行われた、「外国語授業」を見学させていただきました。

筆者の小学校時代には英語の授業はなかったため、「小学校6年生の英語の授業」がどんなものかピンとこないまま、授業見学に臨みました。

場所は、広めのランチルームで行われており、地域の方々を含め大勢が見学していました。

まず、先生の最初のあいさつが全て英語！そして、授業のテーマは、「世界の色々な時刻」でした。

最初に、デジタル教科書で大きな世界地図をスクリーンに映し、先生が指差すのを見ながら「〇〇（都市名）は今何時ですか？」「今〇時です」という英会話をリスニングします。



次に、カードを用いたゲームを交えながら1～60までの数字を英語で言う練習をします。「60までの数字が言えれば、時間を言うことができますからね」と、先生。なるほど・・・とても実用的です。

最後に、教室を動き回りながら世界の都市の時間を聞き合うゲームをしていました。子ども達がとても楽しそうで、積極的に時間を聞き合っているのが印象的でした。

中学校という場所は小学生にとっては異空間、いわば「アウェー」な場所であるようなイメージだったのですが、やはり1ヶ月という長い期間通っているからか、小学生の皆さんは物怖じすることなく、いい意味でリラックスして授業に取り組んでいるようでした。



積極的に授業に取り組んでいます。



時間を聞き合う元気な声が、教室中から聞こえてきました

【実践報告・分科会】



授業見学のあと、「たのめ科」の取り組みについての実践報告をお聞きしました。

小・中学校行事を一体化し、職員会議や教員の研修を合同で行うなど、連携を図っている様子が伝わってきました。また、地域の方に講師として来ていただいて地域の歴史や自然を学ぶ授業、地域の施設での職場体験の様子など、地域の中での学校の姿を発表していただきました。

また、「地域社会における自分のあり方や課題・困難に対峙する力を養う学習」である「アントレプレナーシップ教育」に取り組んでおり、地域活性化のための課題を見つけ、分野ごとにグループに別れて情報を収集し、企画を立案し、中間発表・練り直しを重ねて文化祭で発表しているとのこと。

非常に長期間に渡る学習ですが、社会に出てからも必要な問題解決能力・発想力やコミュニケーション能力などが養われる経験ができるのではないかと思います。

その後、両小野学園の学校支援ボランティアの方や、見学に来ていた他校の先生方、市町村教育委員会の方などを交えての分科会に参加させていただき、様々な角度からのご意見をお聞きしました。ここに掲載しきれないのが残念なのですが、「学校側として地域の方に参加していただくためにどのように仕組みを作っていくのか」、といった視点からの意見や、地域の方から「地域としてはどのように関わっていけばよいか」などの意見が出され、積極的な議論が交わされていました。

【最後に・・・】

今回訪問させていただいて、子ども達的能力を引き出すためにはどんなことに取り組めばよいのか、真剣に考え、様々な取り組みを実践・検証していることが伺えました。小学校から中学校までの9年間一貫して、地域や学校全体で子ども達を育てていくという意気込みの一端を垣間見ることが出来た気がしました。

最後になりましたが、突然のお願いにも関わらず、私の訪問を快諾してくださった両小野学園の皆様へ深く感謝申し上げます。

(文責 教育総務課 西加奈永)

[目次に
戻る](#)

イベント情報・お知らせ

1月から2月までに開催する研修講座のご案内をいたします。詳細については、当センターのHPをご覧ください。皆様の参加をお待ちしております。

タイトル	日時	実習・講座	講師
◆生涯学習推進講座 「図書館の電子情報サービスの今とこれから」	1月16日(木) 9:40～16:00	講義:「国立国会図書館の電子情報サービスの現在」 ○事例発表Ⅰ:「信州伊那谷発、新しい時代の「地域を知る」を楽しむーデジタルコモズの構築と活用ー」 発表者 伊那市立伊那図書館 館長 平賀研也氏 ○事例発表Ⅱ:「長野県地域史資料データベース構築・公開事業について」 発表者 長野県図書館協会 事務局長 宮下明彦氏	講師 国立国会図書館 電子情報部 電子情報サービス課課長補佐 竹鼻 和夫氏
◆天体観測講座 「冬のスターウォッチング」	1月7日(火)～9日(木)の観測条件のよい一日 18:00～20:00	実習: 月、木星、冬の星座等の観測	講師 総合教育センター専門主事
◆パソコン講座 「チャレンジ! はじめてのパソコン」	① 1月20日(月)、21日(火) ② 1月23日(木)、24日(金)	[1日目] 実習 「パソコン操作の基礎・起動」 「マウスの使い方・キーボードの操作」 「文書(Word)の作成」 時間 9:40～15:00 [2日目] 実習 「文章(Word)の作成の復習」 「デジカメ撮影と写真の取り込み方」 「文書の完成と印刷」 時間 10:00～15:00 (内容と時間は①、②共通)	
※ 受講は無料です			

生涯学習推進センターのホームページは <http://www.nagano-c.ed.jp/shogai/> です。

◆お問い合わせ◆

長野県生涯学習推進センター
〒399-0711
長野県塩尻市片丘南唐沢6342-4
電話: 0263-53-8822 FAX: 0263-53-8825
E-mail: shogaigakushu@pref.nagano.lg.jp

◆[長野県のホームページのリニューアルに伴い、長野県教育委員会のホームページのURLが変わりました](#)

◆[新しい信州ブランド戦略の「キャッチフレーズ&ロゴマーク」と「スローガン」をご活用ください。](#)

◆[子どもたちがインターネット上のトラブルに巻き込まれないために注意すべきことを共同メッセージとして発表しました](#)

◆[長野県スポーツ推進審議会の委員を公募します](#)

あしがき

メールマガジン1月号をお届けします。

雪が降り、本格的な冬になってきましたね。

「今年の冬は雪が多くなる」と誰かが言っていました。その根拠は「カマキリが高いところに巣を作っているから」だそうです。私の出身地方では昔からよく聞く言い伝え(?)です。主に祖父母や地域の人から伝え聞いた記憶があります。

真偽のほどは定かではありませんが、天候に関しては他にも「山が迫って見えると天気が崩れる」や「ご飯粒が茶碗にくっついて離れにくい日は、晴れる」など、様々な予報ネタがあります。聞いたことがある方もいらっしゃるでしょうか。

「冬の夜、星がきれいだと、次の日の朝はとても冷え込む」らしいのですが、明日はどんな天気になるのでしょうか。

手軽な天気予報、本当かどうか試してみてください。

さて、2013年のメールマガジンは本号で最後になります。

ご愛読いただきありがとうございます。

2014年も、どうぞよろしく願いいたします。

良いお年をお迎えください。

(か)

[目次に
戻る](#)